

## ■ 第29回法人会員インフォメーションの会

鹿島建設本社見学を終えて・・・

2008年8月25日 第29回法人会員インフォメーションの会が鹿島建設（株）新本社ビルで行われました。

多数の希望者が予想されるため、又、現在執務中ということもあり先着30名限定にてセミナー、見学会、懇親会が行われました。

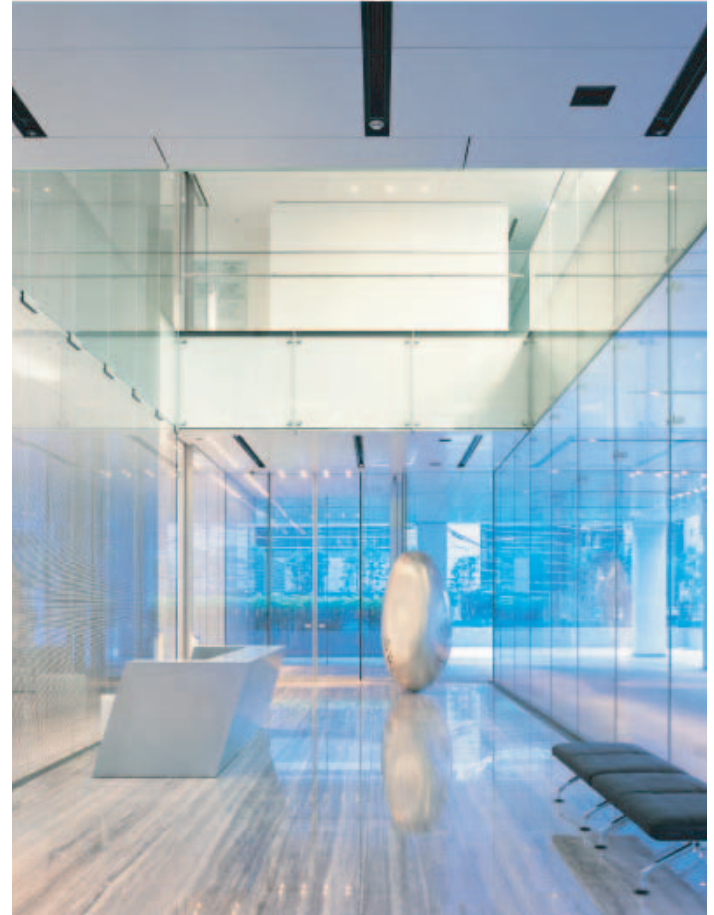
鹿島建設は赤坂に本社を構えて40年という歴史を持ちますが、業務拡大に伴い分散した部署の集約化、効率化をめざし本社ビル再配置計画の一環として本社ビルが竣工されました。講演テーマは『鹿島ブランドの継承、知的創造を触発する空間作り』ということで建築設計本部・塚本平一郎統括部長よりフレキシビリティ、サスティナビリティ、セーフティーというテーマに基づき、快適な空間づくりに努めたという建築にかかわるお話を・・・インテリアはイリアの帛屋正さんより、安田侃さんのホワイトブロンズ彫刻の話、イタリアシエナ郊外まで行き日本にはないクラシック仕上げに惚れ込み即決したシルバートラバーチンの話など数々のお話をいただいた後、早速見学会へ移りました。

エントランスはいろいろな角度から眺めることにより表情が異なる鹿島建設のサイン、割り肌仕上げの黒石と楠木との対比などシンプルな中にも随所に鹿島らしさが見られ、圧巻はエントランスロビーに設けられた安田侃先生の彫刻で、アートへの理解がある鹿島建設らしい配慮が伺えました。

続いて通常では中々見せてもらえないような営業本部などを見学し、最上階へ移り総勢66名の役員が一堂に会する近代的且つ機能的な会議室の見学をしました。一瞬ですが自分が役員全員の前でプレゼンテーションをすることを想像し、ここで全ての決定がされるかと思うと肝がちぢむ思いがしました。



大会議室（本社ビル）



エントランスホール

最後にゲストルームを見学できましたが先代の会長時代より保有されている日本画家、前田青邨作の武者絵が（文化勲章を授章されている）メインの壁面に飾ってあり、この部屋で使用しているシルバートラバーチンとの色の調和が見事でした。

部屋のインテリアを考える時にそこに飾る絵を想定し壁面などの材質、色など選んだ設計者の深い意図が感じられました。

見学会終了後に鹿島建設さんのご好意により社員倶楽部を解放いただき、ほとんど全員がそのまま懇親会へ参加し、おいしいワインと料理、それに会員同士で話に花が咲き正に会員交流委員会の意図するところへピタットはまった見学会でした。

最後になりましたが見学を快く受けていただいた鹿島建設様、インフォメーションの会を計画され当日もご尽力された会員交流委員会の戸矢崎委員長他、メンバーの方に厚く御礼申し上げます。

次回も素敵な見学会のご計画を期待しております。

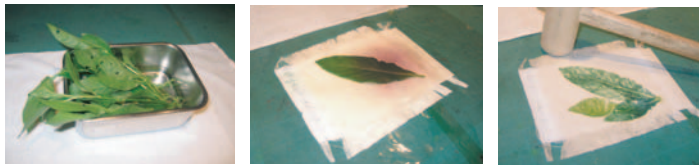
2008.09.11

(株)ランドスケープハウス東 淳一

## ■ 知ってて知らない、、、

### あいのお話

世界的に有名な日本の藍の色、藍はタデ科の植物で、3月に種まきをします。4月に苗取りをして5月に定植をします。収穫は地方によって多少異なりますが7月から8月にかけてします。先日面白い体験をしました。藍の葉を絹の布の上に置き木槌で軽く叩きコースターを作るといったイベントがあり参加しました。



藍の葉

葉をたたく

染めあがり

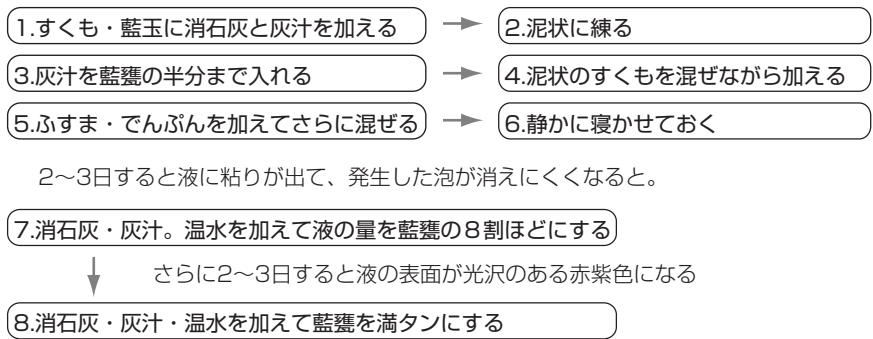
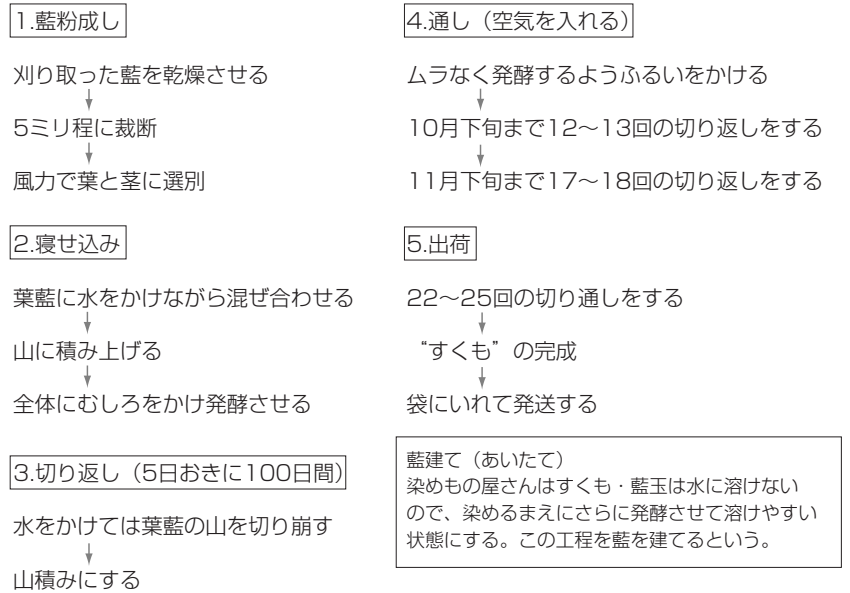
8月20日頃までこの作業ができますが、花が咲くと出来なくなるそうです。



藍の畑

藍染めが完成するまでには数えきれない作業工程と時間がかかります。

### 〈すくも〉をつくる（染め物屋さんへ発送するまでの工程）



#### 藍の染料の完成

※藍はデリケートなので完成後も絶えず管理しなければならない。  
温度が低いと暖める。消石灰を加える等々

## ■ 町名由来（人形町）

蛸殻町のマンションのオーナーから相談があり、空きの部屋が多く8ヶ月も空き家になっている。部屋を見てアドバイスがほしいとのこと、道路をへだてた前のビルは事務所でカーテンをしていないとまともに見える状態で、窓にフィルムを貼ることをご提案した。以前は老人が住んでいたので手すりがかかりある。施工を依頼され、施工後5日目に1部屋決まり、7日目に2部屋が決定したとの連絡がきた。ぜひお礼をしたいので来て欲しいとのこと。その時金一封を頂いた。それが今回の由来板に繋がりました。

頂いたのが日本手拭いに包まれた水引でした。（写真）初めて見た祝儀袋。

この先の人形町三丁目の“ちどり屋”さんと聞き早速帰りに立ち寄りしました。1000点以上の品揃えでオーダーで暖簾も作るそうで、頂いた水引は客の選んだ手拭いを5分で包んでくれます。ひとのよさそうな番頭さんに人形町の話をお聞きしました。昔このあたりに中村座、市村座という芝居小屋があり、芝居を観ての帰りに芝居の出し物のや、役者の人形を作って売ってた店が沢山あったところから人形町の名がついたと、私が興味を持って聞いていたら、三丁目に有名な店があるので行って見たらといわれ店先に出て指差しで教えてもらった。行ってみたら「玄治店濱田屋」と言う料亭である。げんやだなといえは歌舞伎の出し物“与話情浮名横櫛”に出てくる、あの有名な与三郎とお富のせりふで、

与三郎：え、御新造（ごしんぞ）さんえ、おかみさんえ、お富さんえ、いやさ、これ、お富、久しぶりだなあ。

しがねえ恋の情けが仇（あだ） 命の綱の切れたのを

どう取り留めてか 木更津から めぐる月日も三年（みとせ）越し

江戸の親にやあ勘当うけ よんどころなく鎌倉の 谷七郷（やつしちごう）

は喰い詰めても面（つら）に受けたる看板の 疵がもっけの幸いに

切られ与三と異名をとり、押借（おしが）り強請やあ習おうより 慣れた時代

（じでえ）の源氏店（げんやだな） そのしらばけか黒堀（くろべえ）の

格子造りの囲いもの死んだと思ったお富たあ お釈迦さまでも気がつくめえ



その店があり、黒堀ではなく土壁いろで、幸か不幸か当日は開いていなく料理は所望できなかった。玄治店の名は、江戸時代、ここに医者岡本玄治（1587年~1645年）が住んだことに由来し、玄治は幕府の医官で、将軍家光が痘瘡を病んだ時、見事にこれを全快させて、一躍その名を高めた名医で、子孫も九代この地にその職と名跡を継ぎ、その後川上貞奴から、大正元年に現濱田屋が開業し現在に至っている。

## ■ 途中下車



上りは旧暦の月



下りは季語

神田明神の帰りにお茶の水まで歩くことにした。聖橋を渡ったところに大きな棕（ムク）の木がありその幹に太田姫神社のお札があった。江戸城外堀を作るにあたり伊達家と徳川家が神田山を開削した時江戸城の鬼門の護り神として江戸城内よりこの地に移された。昭和6年に総武線開通に伴い現在駿河台下にうつされたとあった。新お茶の水の駅から帰宅のためホームに降りた。電車を待つ間に線路側の壁を見ると小さなオハジキ位でモザイクデザインが地下鉄独特の円筒状の壁に天井まで施してある。[写真参照]

駅員さんに聞いてみた。〈なんで出来ているのですか〉と〈タイルだろう〉との返事、これだけ小さなモザイクを天井まで切れ目無く施すことの労力と時間はと考えると怖くなった。

上り線路側には旧暦（月）がデザインされ下りホーム側には旧暦（季語）のデザイン。駅長室に行き誰のデザインか訪ねました。環境デザイナーのイッコウさんと聞き、灯台もとくらしとはこのことで、我が情報委員のメンバーで（株）イッコウ・リ・グラスアートの板橋一広氏のデザインであった。

早速お話を伺ったことは言うまでもない。一枚のアートは何枚のガラスを使っているのですかと、25,000ピースほど使いました、苦労したのは継ぎ目のないデザインにしたかった、しかしアトリエで作ったものを現場で貼り付けるので4枚に分けて搬入しました。海外の様々な工芸 ガラスを集め割って作ったチップを使っています。それでも足りない材料は自分で作りました。ただ、アトリエ内では材料は大事に使い、残ったもの、たとえ小さな破片とて捨てずに利用しようとしています。いわばアトリエ内のゼロエミッションで、そんな経験がリサイクルガラスの開発に携わる動機とも言えます。アトリエからの発想がなんらかの形で、社会に拡大する事ができてばよいのではと考えるようになりました。現在日本ではいまでも年間数百トンのガラスが捨てられています。界面結晶化技術により板ガラスに焼成することに成功し、透明度や光沢を調整することで、石ともガラスともつかない独特な質感を表現できます。ガラスの縁がグリーン色になるのは鉄分が入っていて、鉄分の入らないものは、絵画のガラスやショーケースに使われる高透過ガラスで、縁が透明です。リサイクルは900度から1000度で10分でできるのでエコですね。（通常は1400度から1500度）と。気さくに答えていただきました。IPEC21のデザインショーケース06では「りんね・雪花硝子」で大賞を受賞されています。最後にこれからの課題は、避けて通ることの出来ない深刻な地球環境問題に今こそ真剣に取り組まなければならない、一つの素材開発がアートの表現から建築、都市環境へと拡大させていくことが、自分が社会に貢献できる役割だと痛切に感じています。

IKKOU RE-GLASS ART INC 板橋 一広  
<http://www.ikkou-re-glass.com/front.html>

## ■ 編集後記

最近目にした女性誌に25歳から30歳の85%が心を磨く、心を安定させたいとプチ修業が流行っているようで、〈写経〉とかボクシングやブラジルの格闘技〈カポエラ〉などを行っているようである、私ごとで申し訳ないのだが〈無雙直傳英信流〉という居合道を始めた。昔からの伝統なので我流は許されず、基本に忠実を求められます。年を重ねるとどうしても自分勝手になるのをここだけは戒められます。

入退会者 敬称略 順不動  
入会 正会員 佐藤 實 鈴木 汎  
一般会員 北島 路久  
法人会員 ハーマンミラー・ジャパン ダントー（株）  
学生会員 朴 スヒョン  
退会 正会員 永井 由利子  
一般会員 斉藤 太郎

編集長 井上 常雄